



を 読 む

河合文化教育研究所 主任研究員 丹羽健夫

東 海テレビは、地元の知多半島美浜町にある、戸塚ヨットスクールに関するドキュメンタリーを2本作っている。1本は1982年の『たたかいの海』、つまり1976年に戸塚ヨットスクールが開設された初期のころのものである。もう1本が2010年の5月に放映された『平成ジレンマ～戸塚ヨットスクールと若者漂流』である。本書はこの間の約35年、戸塚ヨットスクールを追い続けてきた東海テレビのスタッフによる記録である。そこには戸塚校長という特異な人となりや、戸塚ヨットスクールという反学校的学校を報道すること、そしてそこにやってきた（あるいは親によって送られてきた）子どもたちに視点を合わせることによって、この35年の間に我々の社会で、家庭で、学校で教育社会的になが起きていたのかを、炙り出しているのである。

戸 塚ヨットスクールの船出は平和そのものであった。子どもたちにヨットの楽しさを教えたいという戸塚校長の希望を、ヤマハ(株)が後押し

し訓練用ヨット50艇を提供した。訓練生は小3から中3までで週末だけの開校。「子どもたちは、皆、初めて乗るヨットに目を輝かせ、幾度も海に落ちながらも、見る見る上達していった。昼は、校長の妻、幸子さんとスクール参加者の母親たちが作ったおにぎりを、海岸でみんなで頬張るなどアットホームな雰囲気だった。戸塚校長は、このヨットスクールをヤマハの音楽教室のような、男の子のための習い事の場にしたいと考えていた。体罰による指導などはなく、このころが一番楽しかったと、戸塚校長は振り返る」

し かし平安な時は続かない。ある日、中2の少し変わった子が入ってきた。態度が大きく他の子からは嫌われ、言われたことは何もできない。小6から学校に通学していない、その当時は、まだそれ程、社会的に知られていない登校拒否だった。ヨット

の練習もしなかった。校長は考えた末、その子を無視し突き放した。

い わば、いじめだよ。周りが突き放すことで、お前のことは好きではない、ということを知らせた。そうしたら、彼は自分でヨットの練習を始めた。周りに甘えていたことを反省したようだ。そしてその翌日から、その子が学校に行くことができるようになった」めでたしめでたしである。しかし皮肉にもこのことがその後の戸塚ヨットスクール波乱万丈の航路のきっかけになるのである。このことがロコミで広がり、スクールには、不登校はもとより、折から、校内暴力が社会問題化し、教育の現状に疑問が投げられはじめた時期ゆえ、家庭内暴力や非行の子どもたちが続々と入校してくることになる。そこからスクールの体罰がはじまるのである。

学 校では学校教育法第11条で体罰は禁じられているが、現実の問題として体罰と教育について考えさせる一冊である。



◀『戸塚ヨットスクールは、いま 現代若者漂流』岩波書店 東海テレビ取材班 著 定価 本体1,700円＋税